

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人聖ヨゼフ学園 認定こども園 聖ヨゼフ幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教の精神を幼児の人格形成の基本目標とする。ありのままの自分が受け入れられ、かけがえのない存在として大切にされることにより、感謝する心・思いやりの心・祈る心を育てる。

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

- ① 元気な子ども（心と体を十分に使い主体的に生きる力を育む） ②言葉による伝え合い ③元気な子ども応援団

【3-5 歳児】

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果				コメント				
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果	総括評価	評価結果に関する意見等	
① 元気な子ども <small>心と体を十分に使い主体的に生きる力を育む</small>	自分のやりたいことに向かって心と体を十分に使う	4	自分で目標を決め、活動に取り組めるように環境の準備に努める	3.4	4	自分の力でやり遂げるために考えたり工夫したりする	3.7	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 様々な体験を通してやりたいこと、好きなことを見つけることができた 繰り返しできる場の環境作りが課題 やりたいことに向かって自分で考えたり話し合ったり、相手の意見を聞き入れる姿が見られた 	
		3	やりたいことが選択できるように選択肢を準備する		3	自分のやりたいことを見つて挑戦する姿が見られるようになった				
		2	喜んで活動に参加できるように取り組みを行う		2	活動への参加意欲が見られるようになる				
		1	様々な活動を体験できる場を作る		1	喜んで活動に参加する				
	充実感を持って幼稚園生活を送る	4	友だちと一緒にやり遂げる喜びを味わう	4	4	満足感や達成感が得られるようになる	3.9	4	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと一緒に活動する喜びを感じ参加していた 積極的に取り組むことが増え、園に来ることを楽しみにする姿が見られるようになった 年齢によって友だちとの関わり方に差があるが、同じ目標に向かって喜びをもって取り組む姿が見られた 	
		3	さまざまなことに積極的に参加する		3	自分の役割に気づき協力する姿が見られるようになる				
		2	友だちや保育教諭と楽しく過ごす		2	生き生きとした表情がみられるようになった				
		1	元気に登園する		1	喜んで登園する				
	② 言葉による伝え合い	園生活の中で心おきなく会話を楽しむ	4	自分の思いを伝えたり、相手の気持ちも理解できるようグループ活動を行う	3.9	4	言葉の内容を理解し会話をしむことができるようになる	3.4	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に同年齢の活動の場を作ることが出来た コロナ禍が終わり、会話をする場面も増え、言葉によるやり取りが豊かになった
			3	同年齢の活動を月に6回は行い、交流の場を準備する		3	相手と喜んで会話する姿がみられる			
2			言葉を豊かにできるように語りかける	2		自分から人に声をかける姿がみられるようになった				
1			友だちや保育教諭と挨拶を交わす	1		友だちや保育教諭とコミュニケーションがとれるようになる				
豊かな表現力を身につけ心を通わせる喜びを味わう		4	色々な表現方法を知らせる	3	4	自分の思いを自由に表現できるようになる	3.3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 活動の終わりなどに感想を聞くと、年長や年中は自分から手を挙げ、自分の思いを言える子が増えた。まだ自由に表現することは難しいが、言いたいという気持ちはある子が多かった 自分の言葉で表現することを楽しんだり、歌や踊りにも喜んで参加するようになった 	
		3	ことばあそびを楽しむ機会を作る		3	感じたこと・わかったことを伝えることができるようになる				
		2	トピックスを聞いて感じたことを聞き合う場を作る		2	保育教諭や友だちの話を興味深く聞くようになる				
		1	週に2回トピックスを話す		1	話を聞くことに心地よさを感じる				
③ 元気な子ども応援団		保護者・地域との連携を密にし一緒に成長を見守ってもらう	4	保護者や地域の方々と交流する機会を作る	3.6	4	保護者・地域・こどもの繋がりを喜ぶ	3.7	3.7	<ul style="list-style-type: none"> パパママ先生や外部の専門の先生による指導、交流会など、積極的に取り組むことができ、その中での子どもの社会性の広がりを感じることができた 市民センターや青山幼稚園との交流を深め、地域の役割も知ることができた パパママ先生は今後も規模を広げて継続していきたい
			3	継続的・効果的なSNSの活用を行う（月1回以上のクラスだよりのUP）		3	園生活をよく知り、応援したい気持ちを持ってもらえるようになる			
	2		積極的に園外に出かけ地域のひとと挨拶を交わす機会を作る	2		園や子どもたちを好意的に見守ってもらえるようになる				
	1		パパママ先生・公開保育など園に足を運んで頂く機会を増やす	1		子どもたちの様子を知ってもらえるようになる				
	職員間の共有を豊かに図る	4	PDCAサイクルを意識した会議に取り組む	3.1	4	目標や課題が明確になる	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 終礼のエピソードは続かなかった 話し合いはしていたが、次につなげられるようにし、PDCAサイクルを回せるように頑張りたい 積極的に職員間で話すことができなかった 共有を行う時間の確保が課題 	
		3	月1回以上の職員全体での共有会議を行い、子どもの様子を共有する		3	職員同士が積極的に話したり考え合ったりするようになる				
		2	月1回以上の学年担当会議を行い、活動の計画・準備を行う		2	各学年の活動を知り、クラスでも保育に活かせるようになる				
		1	終礼でひと言エピソードを共有する		1	子どもの小さな変化に気づけるようになる				

【1-2 歳児】

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果				コメント			
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果	総括評価	評価結果に関する意見等
①心気な子どもを主体的に生きる力を育てる	意欲的に遊べるような環境の構成	4	教具をこまめに入れ替え、意欲が継続するよう配慮する。	3.5	4	繰り返し行い、楽しむ。	3.8	3	・様々な事に視野を広げる姿が見られた ・繰り返し行い、楽しむ姿が見られたが、もっとこまめに教具を入れ替えられたら良かった
		3	発達段階や興味に合う玩具、絵本、遊具を準備する。		3	様々なものに目を広げていく。			
		2	様々な種類の玩具を準備する。		2	自分で選び、活動する。			
		1	園内環境の中にある遊具などで遊びを知らせる。		1	喜んで遊ぶ。			
	身近な自然に触れる体験をする	4	野菜や花を育てる体験をする。	3	4	四季の違いを五感で感じる。	3.5	3	・自然と触れ合う事が多くあり、自ら探してみたり、触れてみたりする姿があった。 ・園庭の花壇に水やりをして喜ぶ姿が見られた。
		3	園外保育を取り入れる。		3	自ら興味を持って自然に触れる。			
		2	戸外遊びを取り入れる。		2	外での活動を楽しむ。			
		1	身近な自然にたくさん触れる機会を設ける。		1	自然にたくさん触れる。			
	健康な心と身体を作るために基本的な生活習慣を身につける。	4	難しい所は、援助しながら、その子の自信に繋げる	3.8	4	基本的な生活習慣を身につける。	4	3.5	・一人ひとりの子どもの段階に合わせて援助する事で出来た事を喜ぶ姿が見られた。 ・おしごとや生活の中で手や指をたくさん使えるよう環境を作ったり、どうしても生活の中では甘えも見られるが職員同士で連携しながら取り組んだ。
		3	手や指の使い方を繰り返し伝え、できることを喜ぶ。		3	自分のことは自分でやってみる。			
		2	生活の中でたくさん手を使う経験ができるような環境を作る。		2	保育者の援助を受けながら、一緒に行う。			
		1	自分の物に関心を持てるように関わる。		1	保育者がしていることを見る。			
②伝え合える言葉による	様々な言葉を知り、やり取りを楽しむ。	4	子どもが自発的に見立て遊びができるよう環境を準備し、寄り添う。	3.8	4	保育者や友だちと簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	4	3.5	・発語がなかった子ども簡単な発語で伝えようとする姿が見られるようになった。 ・片言など簡単な発語で伝えようとする。 ・言葉を真似て発する。 ・低月齢児も言葉で表現することが増え、成長が嬉しかった
		3	子どもが関心を持てるような実物や写真を展示し、知らせる。		3	片言など簡単な発語で伝えようとする。			
		2	絵本や紙芝居やわらべうたなどでたくさんの言葉を伝える。		2	言葉を真似て発する。			
		1	子どもの表現を理解し、受け入れる。		1	したいこと、してほしいことを表情や指差して伝えようとする。			
③元気な子どもも応援	保育者が成長する学び	4	話し合った事を保育の中で実践してみる。	4	4	学んだ事を保育に活かし、充実感を味わう。	4	4	・それぞれの職員が受けた研修で知り得た学びを他の職員に共有し、すぐに保育に生かし実践した。 ・研修で学んだことや子ども一人ひとりの関わりについて話す機会を作る事で職員が共通理解の中で子どもに関わる事が出来た。
		3	得た知識を皆で共有し、保育に活かしているよう話し合う。		3	積極的に学ぼうとする。			
		2	研修に参加し、知識を深める。		2	気付いた事を自分から発信していく。			
		1	保育の課題を職員間で共有する。		1	子どもの困っている事に気付く。			
	家庭との連携を密にする	4	保護者の多様な価値観を受け止め、寄り添う。	4	4	子どもの成長の変化を知り、子育てに喜びをもつ。	4	4	・毎日連絡帳や送迎で顔を合わせる中でコミュニケーションを図り、子どもの成長を共有する事が出来た。共に喜び合いながら次の目標へ向けて行く事が出来た。 ・保護者へ不満を与えてしまい改めて信頼関係の大切さ、保護者の背景を知る事を実感した。連絡帳やインスタ発信を通してもっと一緒に成長を喜べたらと思う。
		3	子どもの成長を共に喜ぶ。		3	保護者の方から家庭の様子や悩みを伝えてくる。			
		2	日頃の子ども様子をこまめに知らせる。		2	保護者も園、職員に親近感を持つ。			
		1	担当職員を知ってもらう機会をつくる。		1	担当職員を知り、安心する。			

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価	理由
A	子どもたちが主体的に活動に参加できるような人的・物的な環境づくりを行うことで、自分のやりたいことに向かって精一杯活動に参加することができ、充実感や達成感や喜びをもって、園生活を送ることができた。また、新しい取り組みで保護者や地域との連携を豊かに図ることで、子どもたちの成長を共に喜び実感することができた。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
繰り返しの場	子どもたちが経験したことについて十分な満足感や達成感を感じられるために、心ゆくまで十分に体験を繰り返すことのできる機会がもてるよう、保育計画及び内容を見直していく。
時間の確保	職員間での情報の共有がもっと豊かに図ることができるよう、時間の確保をどのように行うのか、またどのような方法で情報共有ができるのかを職員全体で考え、工夫する。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・パパママ先生では、保育の在り方を保護者の方々に見てもらうだけでなく、キャリア教育にもつながり、子どもたちにとっても良い取り組みとなった
- ・各行事は、子どもたちのためにあるものであって、なんのためにするのか、子どもたちのなにを育てるための行事なのかという、教育の本質について保育教諭自身がしっかり考え認識しておくことが大切
- ・言葉の表現の育ちは見えたが、個人差があるため、表現ができない子への個別の配慮も必要
- ・子どもたちの主体性を大切にする保育はとても時間がかかり、保育教諭が大変だとは思いますが、子どもたちが今の時期にしか体験できないことでもあるので今後も大切にしてほしい
- ・青山市民センターと交流を図り、地域とのつながりを強めていく
(お茶や折り紙や手芸や野菜作りなど、継続できること、園とセンターが共通してできることを行うのが良いのではないか)
- ・保護者アンケートを保護者へフィードバックすることで、幼児教育や園への理解も深まる

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

委員会実施日 令和6年3月22日